助成番号：570

ＤＶＤ映画ソフトとシナリオを活用する ＬＬ英語教育の実践と異文化理解の推進

時　岡　裕　純
畜産科学科畜産生命科学講座助教授

１．目　　的

筆者は帯広畜産大学において，過去５年間，「ＬＬ総合英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（学部），「実用英語」（別科），「西洋環境文化論」（大学院）の授業を担当してきている。学部１年生を対象とする「ＬＬ総合英語Ⅰ」「ＬＬ総合英語Ⅱ」では健康および環境の分野における時事的な話題を扱う英語ドキュメンタリー映像を主たる教材として用い，実際のコミュニケーションに役立つ英語の習得を目指しながら指導に取り組んでいる。学部３年生を対象とする「ＬＬ総合英語Ⅲ」では，映画ソフトとその台詞を活字化した英語シナリオを教材として用い，実際の場面で使用されるナチュラルスピードの口語英語の指導を試みている。また，大学院の「西洋環境文化論」において，異文化理解の手段として映画ソフトを利用する場面もある。

映画ソフトは，現在，ビデオテープからＤＶＤへの移行が進んでいるが，字幕表示切替，音声選択等，操作性の観点からも，ＬＬ英語教育におけるＤＶＤ映画ソフトの有効的な活用について研究することは意義深いと考える。今回，財団法人帯広畜産大学後援会より助成を受ける幸運に恵まれたが，これにより，帯広畜産大学の学生の実情に即した効果的な英語指導，異文化理解推進の実現を目的として，ＤＶＤ映画ソフトとシナリオの活用について検討を進めた。

２．方法と成果

映画ソフトとシナリオを用いて英語指導を行うにあたっては，映画の中で用いられている英語がどのようなものであるのか認識しておくことが求められる。また，ＤＶＤなどのデジタルメディアを効果的に利用する方法について検討した上で，内容が文字化されたシナリオを効果的に連動させて指導にあたる必要がある。

(1)　映画ソフトの中で使用されている英語の姿を分析

帯広畜産大学に入学してくる学生たちは，高等学校時代，いわゆるアメリカ英語と呼ばれる英語だけを学んできた場合が多い。彼らは文部科学省による検定済みの教科書を主たる教材として用いる英語授業を受けてきているため，実際の日常生活の場面で使用されている英語の実態について学ぶ機会を得ることがあまりない。現実の世界においては，アメリカ英語だけでなく，イギリス英語，オーストラリア英語など，さまざまな英語が存在しているから，国際的な舞台での活躍を目指す畜大生は，多種多様な英語に触れながら学んでいく必要があるだろう。

筆者は英語指導者として，これらの地域ごとの英語の特徴を分析し，その効果的な指導法について研究した。具体的には「ＬＬ総合英語Ⅲ」の授業の最初数時間，映画ソフトを用いて，アメリカ英語，イギリス英語，オーストラリア英語の発音上，用法上の特徴の実例を挙げ，学生に実際の場面で用いられる英語の多様性について認識させることを試みた。

(2) デジタルメディアの効果的な活用方法の検討

実用的な英語教育を実践するに際しては，実際のコミュニケーションにおいて用いられる英語をふんだんに聞かせることが大切である。ＬＬ教室における指導では，これまで，カセットテープやビデオテープなどのアナログメディアが用いられてきたが，現在，それらは，ミニディスクやＤＶＤなどのデジタルメディアに移行しつつある。限られた授業時間内に，学生たちにできるだけ多くの英語を聴かせるためには，瞬時の頭出し再生が可能なデジタルメディアの使用が有効である。「ＬＬ総合英語Ⅲ」の授業においては，まず英語音声にのみ注意を集中させるために，ミニディスクに映画の台詞を収録し，これを活用した。トラック分割機能を用いて必要な箇所に頭出し用の信号を入れておけば，授業中，希望のセンテンスを何度でも繰り返し再生することが可能となる。ＤＶＤ映画ソフトには，最初から，チャプター分割の信号が収録されているので，これを活用すれば，各パートの頭出しは容易である。アナログ方式のメディアでこれらの操作を瞬時に行うことは不可能であるから，デジタルメディアの効果的な活用により，時間の無駄がない，テンポのよい授業を実現することができる。

(3) ＤＶＤ映画ソフトとシナリオを用いる授業の実践

「ＬＬ総合英語Ⅲ」は学部３年生を対象とする選択科目である。ここでは口語英語の学習を目標に掲げ，映画ソフトを教材として用いた。正確なシナリオを入手できなければ，効果的な授業の実施は難しいので，まず，シナリオ入手が可能な映画を調査する必要がある。その中より，用いられている英語のレベルおよびストーリーの内容という２つの観点から，大学生用の教材として適切な作品を選択することとなる。今回使用した映画 *Field of Dreams* は，アメリカの典型的な農業州であるアイオワのトウモロコシ畑を主な舞台にしているが，十勝平野の大自然と共通する点も多く，学生たちはこの作品に共感を覚えたようである。

授業では，シナリオの中の注意を要する単語や語句をコーラスリーディングにより練習し，ヘッドセットを利用して映画を視聴する。視聴に際しては，ＤＶＤの字幕表示切替機能をじゅうぶんに活用した。英語音声を聞かせながら，同時に画面に英語字幕を表示させ，聴き取りにくい箇所の理解を字幕で補強したあと，字幕を消して聴かせることにより，聴き取りのコツを各場面で指導した。

画面と音声で内容の理解がある程度達成できた段階で，ミニディスクのリピート機能を活用し，重要な表現を含む台詞を繰り返しリスニングさせ，ＬＬシステムの個別練習機能を用いてシナリオの音読練習を行う。続いて学生たちが各配役を担当し，ペアでダイアローグ練習を行うが，筆者は，登場人物の表情，身振りなどに注目させ，それらを模倣させることにより，音声としての英語だけでなく，ノンバーバルなコミュニケーションの実際についても学生たちが学べるよう，工夫を試みた。このようなノンバーバルな意思伝達方法の学習は異文化理解の推進にもつながると確信している。

3．今後の課題

大学生として，英語を学ぶ場合，教科書等に収録される標準的な英語を理解する基礎力の充実が最も重要であることは間違いないが，あるレベルに達すると，現実の世界で用いられている生の英語に触れることが必要になってくる。この場合，ただ，漠然と聞き流すのでは，英語を効果的に習得することはできない。シナリオという形の文字化されたテキストが存在するという点において，映画ソフトは，学習者にとって，まさにうってつけの口語英語教材であると言える。これまでは，半年間の授業で１本の作品を深く掘り下げて指導してきたが，今後は，英語学習と同時に，ノンバーバルなコミュニケーション以外の異文化理解の観点にも注意を払いながら，授業を実践していくことが必要であると思っている。